資料１６

平成２０年度新規事業提案
大学コンソーシアムあきた中大連携授業

■　実施要領(案)

１　目　的

秋田県内の高等教育機関による地域貢献活動の一環として、中等教育部門との連携による地域の教育活動への支援を図るため、中学校における「総合的な学習の時間」を活用した、県内大学等の教員による企画授業を実施します。

２　実施主体

大学コンソーシアムあきた

３　概　要

大学コンソーシアムあきた加盟大学等の教員が、専門分野を活かしたテーマを設定し、中学校への出前授業を行う。授業の実施にあたっては、次のとおりとします。

(1) 対　象　出前授業を希望する中学校を対象

(2) 講　師　大学コンソーシアムあきた加盟大学等の教員とします。講師の要望等により大学生のアシスタントを依頼することも可能とします

(3) 内　容　①「総合的な学習の時間」を活用して実施します。開講日など実施の詳細については受入中学校と協議のうえ決定します
②授業テーマについては、人文・社会・自然科学等の各分野から、受入中学校の要望を踏まえて授業提供ができるよう配慮します
③授業内容については、中学校の学習状況を踏まえ、科学的な方法論を題材に、生徒が自ら考え、学ぶ姿勢の涵養に資するなど、中学校学習指導要領に定める「総合的な学習の時間」の主旨や目的を踏まえたものとします

(4) その他　講師謝金や消耗品類等、授業に必要となる費用については原則として大学コンソーシアムあきたが負担することとします。ただし、必要がある場合は受入中学校の備品類を使用することもあります

(5) 授業の進め方(参考例)

ねらい説明

この企画授業のねらい（主旨）を説明し、講師を紹介します

↓

ｸﾞﾙｰﾌﾟ実験

テーマ説明の後、仮説を立て、グループ毎に実験に取り組みます。実験中は講師が各グループを廻るほか、アシスタントの大学生がグループ毎の実験を指導します

↓

振り返り

実験結果や仮説を振り返り、それに導かれる教育効果を認識させます

↓

ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ

～「中学校の頃はどんな生徒だったの？」「なんで大学で学びたいと思ったの」「どんなことがきっかけで生物分野等理系を選択したの？」などを生徒と年齢的に近い大学生と直接会話することで、生徒に等身大のイメージを持たせ、「科学者とはどんな人か」など通して自らの進路への期待などを膨らませてもらいます～

↓

メッセージ

終わりに、講師からこの実験を通して伝えたいメッセージを贈ります

↓

感想記載

授業についての感想（自由記載）を書いてもらいます

■　平成１９年度パイロット授業の状況

１　日　時

平成１９年９月２６日（水）午後１時３０分～午後３時４５分

２　会　場

秋田市立秋田東中学校　体育館（秋田市手形休下町）

３　対　象

同中学校３年生生徒１８６名

４　講　師

秋田大学教育文化学部　石　井　照　久　准教授（自然環境講座）

※同大学生11名がアシスタントとして授業をサポート

５　テーマ

「シラス観察を通して学ぶ海洋生態系の不思議」

６　授業のねらい(授業計画書から抜粋)

〇ふだん身近に売られている食品「シラス」を目を凝らして観察する実験を通して、食物連鎖を含む生態系の概念に触れ、地球環境問題への意識を高める。

〇実験や討論・討議を通じて自ら考え、より科学的なものの見方や考え方を学ぶ。

〇大学生との交流を通じて、将来の進路選択について主体的に考える力を高める。

７　授業の進行

(1) 海洋生物についての講義

(2) 生徒によるグループ実験及び討論（講師・大学生による補助）

①グループごとに仮説を立て、産地や時期からしてどのような生物がシラスに混じっているのかを予想する。

②実際にシラスを観察しデータ（結果）を出す。

③グループごとにデータ（結果）について討論を行う。

④全体のデータ（結果）をまとめ、討論を行う。

◇◇◇◇◇◇◇　授業の様子　◇◇◇◇◇◇◇

○ 6～7 人のグループに分かれて着席。海洋生物に関する講義(30 分程)では、はじめに、海洋生物が学術的にどのように分類(門)されているのか、などについての講義を受けた。

○ シラスはどのような漁により獲られているのかなどから、観察材料に含まれるシラス以外の生物へ想像を膨らませ、グループ毎に混じっている生物について「仮説」を立てた。

○ 実際に観察材料のシラス干しを竹串で分け、ルーペで観察しながら分析し、仮説が正しかったかどうかを検証した。

○ 仮説を検証し、その結果を発表・討論するというスタイルで授業を進めたが、大胆な発想による仮説を立てられたグループは少なかったように思われた。

○ 検証結果を全体でまとめた後、講師から「シラス干しを観察するだけではなく、その産地や季節などのことも思考することが重要」などの講評を得て、より科学的なものの見方や考え方の一端を体験し、食物連鎖や地球環境などへも理解を深めた。

(3) 大学生との交流（進路を主なテーマとして）

◇◇◇◇◇　大学生との交流の様子　◇◇◇◇◇

○ 大学生１人が２～３のグループを担当して授業を進行。シラス観察時は大学生がいろいろとアドバイスを行った。

○ 大学生との交流タイムでは、何で大学に進もうと思ったのか、中学生の時はどんな教科が好きだったのかなど、生徒はそれぞれ大学生に対する質問を用意していた。

○　シラス観察時に担当した大学生が同じグループで生徒と交流したので、進路を主テーマとする交流タイムでも生徒と大学生のコミュニケーション状態は良好だった。

○　予め用意した質問以外にも、多くの話題で盛り上がっているグループが多数見受けられた。

(4) まとめ（講師からのメッセージと生徒の感想発表）

◇◇◇◇◇講師からのメッセージ◇◇◇◇◇

自分で考え、予想し、検証するという科学的スタイルの練習を実施しました。単にケチをつけるということではなく、批判的スタイルの重要性や、自分で確かめることの大切さを学んだと思います。また、実体験の重要性「百聞は一見にしかず」は正しいこと、そして失敗は成功のもとであること。これらから、シラスの取り方の問題、地球規模の流通の問題、地球規模の環境問題など、表面だけではなく、見えていない部分にも思考を巡らすことが重要だということを学んでください。多様な価値観を身につけることがとても重要です。

■　実施計画（案）

1　授業計画の募集

平成19年12月20日付け大コ企－３３により各構成機関あてに来年度の科目提案募集について通知済み。現在、５科目の提案あり。

＜写＞

中大連携授業の科目提案について

大学コンソーシアムあきたでは、地域貢献活動としての中等教育部門との連携・協力をより深めるため、中学校の総合的な学習の時間を活用して様々な分野の研究者・大学教員が「生徒の考える力」などの育成を目指す企画授業「中大連携授業」を実施します。

ついては、貴機関において出前講義として提供できる科目(テーマ)について、別紙により平成20年2月15日(金)まで提案してください。

■授業の概要

＜授業スタイル＞

中学校への出前講義として実施、中学校では「総合的な学習の時間」を活用し、例えば２コマ続きの時間帯（約90分程度）で授業を行います

＜対象学年＞

特に指定はせず、中学校１～３年生を対象とした授業とします

＜授業回数＞

クラス単位に実施の場合は複数回、学年全体を単位として実施の場合は１回

＜講師謝金等＞

講師謝金は授業１回あたり１万円

秋田市外等へ移動の場合には交通費実費

学生等アシスタントを依頼する場合は、授業１回あたり２千円／人

＜進め方＞

①企画部は、県内中学校に対して「総合的な学習の時間を活用した大学教員による出前授業」の企画を提示し、実施希望校を募ります。その際、各機関から提案のあった授業企画を「中大連携授業の企画例」として中学校側に示します

②企画部は、応募のあった中学校と授業依頼内容について打合せ、担当する講師を検討、授業の進め方について講師と協議します

③企画授業に必要な資材消耗品等は講師と打合せのうえ、企画部が準備します

④事業の広報活動は企画部が行います

2　授業メニューの中学校への提示

大学コンソーシアムあきたは、各構成機関から提案のあった授業企画を「中大連携授業の企画例」としてとりまとめ、秋田県内中学校に提示する。

なお、授業会場までの移動負担を考慮し、事業初年度となる平成２０年度は、秋田県中央地区の中学校を中心に情報提供する。

＜案＞

平成　年　月　日

各公私立中学校長　あて

大学コンソーシアムあきた理事長

大学コンソーシアムあきた中大連携授業の実施について（お知らせ）

秋田県内高等教育機関の連携組織である当コンソーシアムでは、地域貢献活動として、県内高校生を対象とした企画授業「高大連携授業」などを進めておりますが、より一層の中等教育部門との連携による地域の教育活動への支援を図るため、県内大学等の教員が中学校における「総合的な学習の時間」を活用した新規事業「中大連携授業」を実施します。

各中学校からの依頼により、様々な分野の教員を講師として派遣し、中学生を対象に「生徒の考える力」などの育成を目指す企画授業を行います。

各中学校におかれては、積極的に活用してくださるようお願いします。企画授業についてのお問い合わせは下記担当まで、講師派遣等の御要望は別添様式により随時御相談ください。

添付資料　１　中大連携授業実施要領
　　２　講師派遣依頼書様式
　　３　パイロット事業概要
　　４　大学コンソーシアムあきた平成18年度事業報告

＜連絡先＞

大学コンソーシアムあきた　藤井
秋田市中通二丁目1-51カレッジプラザ内
電話　　０１８－８２５－５４５５
e-mail　info@consortium-akita.jp

3　実施希望中学校との調整

大学コンソーシアムあきたは、企画授業の実施希望があった中学校と授業依頼内容を打合せ、受入中学校の要望を踏まえた授業提供ができるよう配慮し、テーマ及び授業実施計画について担当講師と調整する。